

	主	題	目	録	
		落	穂	拾	い

昨年7月、新設された件名の一つに「ストリップショー」がある。毎月一回、和・洋両分類担当者が集まり、その一か月間に作成した件名のうちから普通件名だけを取上げ検討している。この件名に関しては、新設すること自体に反対はなかったが、分類の代表番号 KD 871 をめぐって議論がたたかわされた。KD 871 は演芸の「その他」で、既存の件名では「腹話術」「紙芝居」「剣舞」などが入っている。ここに「ストリップショー」を加えるのは不適當で、むしろ KD 858 (ヴァラエティショー) にすべきだというのが、そのジャンルに強い若手A氏の意見であった。一方あれはヴァラエティなどと言えるものではないと主張する焼跡派のB氏。その両氏の間で時代的変遷、地域差など含めて熱っぽい応酬が交されたが門外漢にはさっぱりわからず、結局、品よく(?)ヴァラエティショー(KD 858)に納まった。ちなみに「国立国会図書館和漢書分類コード増補」では779.2(茶番狂言、にわか、ヴァラエティ)が、一方NDC 8版相關索引では775.2(各種の演劇：喜劇、輕喜劇)が指示され、779.12(ヴァラエティショー)とはなっていない。

- KD 811 演芸
814 演芸史
815 日本

- 821 外国
831 講談・落語・漫談・漫才
836 浪花節
841 流行歌・俗謡
851 サーカス
856 奇術
858 ヴァラエティショウ
861 放送演芸
871 その他

この件名「ストリップショー」の検討は、なぜかもっぱら個人の見聞やウンチクにもとづいて議論がなされたが、こんなのはむしろ例外と言うべきである。一般的には、件名の新設・検討にあたっては、できる限り参考図書に典拠を求め、その意味するところを明確に把握するよう努力している。

しかし新聞や雑誌で目にする最新の用語の典拠を求めることはきわめて困難で、しばしば件名新設を断念せざるを得ない。洋書に関しては、ある主題が日本に紹介されていないと日本語の訳語がわからず件名も作りにくい。「オンブズマン」や「パブリック・レンディング・ライト」は件名新設時点では日本であまり知られていなかったが、それにもかかわらず必要度が高くなると見越して作成した件名である。先人の先見の明に敬意を払いたくなる。「ストリップショー」の分類代表番号も含めて、現在作成している件名も幾年か後に高く評価されることを願うばかりである。

(収集整理部外国図書課 平野美恵子)